



# TOKYO 2020

東京2020 第45回理事会 資料

## 報告事項

---



# 大会の準備状況について

2021年5月26日

# 新型コロナウイルス感染症対策

# プレイブック 第2版

○ 4月28日より順次、各ステークホルダー（SH）に対して以下のプレイブックv2を発信



※ 右記URLよりご確認頂けます。( <https://olympics.com/tokyo-2020/ja/news/news-20210428-04-ja> )

# プレイブック 第2版 の概要

## 【目的】

- 選手や関係者にとっての安全・安心な環境整備と、日本国民の安全・安心の両立

## 【具体的な方策（v 1 からの変更点）】

- 選手や関係者にとっての安全・安心な環境整備
  - － 頻繁な検査（入国前 2 回の検査、選手は原則毎日検査、他 S H は選手との接触程度に応じ定期検査）
  - － コロナ対策責任者（C L O）の職責やトレーニング等を明確化
  - － 万が一、陽性となった場合の手順の明示 など
- 入国後 1 4 日以内の海外 S H と日本在住者との接触を最小限とし、国民の安全・安心を確保
  - － 移動は大会専用車両のみ。公共交通機関の原則不使用（全 S H）
  - － 自己手配ホテルを可能な限り、組織委手配ホテルに集約（全 S H） など
- その他大会参加に当たっての具体的な条件を明確化
  - － 大会期（7/1以降）、大会参加者は、入国後 3 日間の検査結果が毎日陰性であること、かつ受入責任者によるより厳格な監督が行われることにより、入国初日から活動できることを明確化
  - － 入国に当たって求められる書面一式の明確化
  - － 本邦活動計画書のフォーマットや提出時期の明確化
  - － 濃厚接触の基準の明示
  - － 選手村や競技会場における具体的コロナ対策の明示
  - － その他衛生基準の明確化（マスクの常時着用、食事の際のルール、など） など

# プレイブック 第3版 に向けた課題

## 【PB v 3に向けて】

- SHミーティングで出た質問の多くは出入国の手続きや書面、検査に関すること。  
具体的な質問例は以下。
  - 入国後3日間の毎日検査を行えば、受入責任者によるより厳格な監督の下で初日から活動が認められる者はどのような者か？
  - 入国に当たって認められる陰性証明の条件は？（特にオリパラで独自に定める96時間以内2回検査）
  - 日本滞在中に認められる用務先は？
  - 日本滞在中にインストールが求められるアプリはいつから使えるのか？
  - 検査の頻度はいつ決まるのか？ など
- 回答可能な質問は5月中に随時SHに回答。整理が必要なものは6月にPBv3に合わせ整理。

## 【その他の課題】

- 観客上限（6月）
- **大会関係者の総数の縮減、行動管理**
- **医療体制の構築**
- ワクチン

# 大会関係者数：オリンピック大会時

- 簡素化や海外観客の受入れ断念、その後の大会関係者縮減要請の結果、海外から来日する大会関係者の数は、半数以下（約14.1万人 ⇨ 約5.9万人）\*となる見込み。

\*アスリート、一般観客を除く。計数は継続して精査。

【計:約141千人】

※ 特に記載がなければ千人単位にて記載

アスリートの友人・家族、各種プログラム  
約21千人

オリンピック  
約120千人

オリンピックファミリー	3.0
NOC	14.8
IF	5.0
OBS等	18.4
プレス	8.4
その他	69.9

【計:約59千人】

オリンピック  
約59千人

オリンピックファミリー	3.0
NOC	14.8
IF	4.5
OBS等	16.7
プレス	5.5
その他	14.5

今後もスタッフ数の精査や、オリ・パラ兼務の推奨等を継続して実施していく。

延期前

現時点

今後

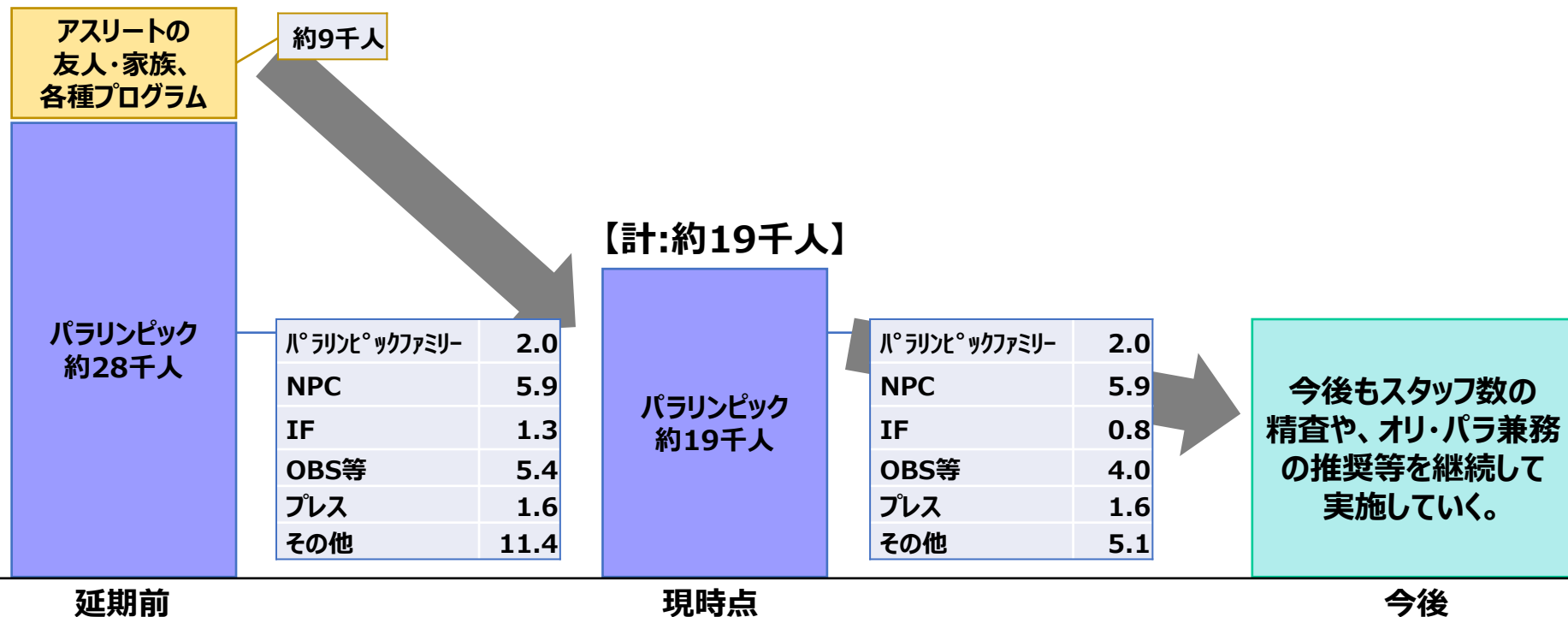
# 大会関係者数：パラリンピック大会時、オリパラ合計

- 簡素化や海外観客の受入れ断念、その後の大会関係者縮減要請の結果、海外から来日する大会関係者の数は、約半数（約3.6万人 ⇨ 約1.9万人）\*となる見込み。

\*アスリート、一般観客を除く。計数は継続して精査。

【計:約36千人】

※ 特に記載がなければ千人単位にて記載



- 海外から来日する大会関係者数のオリ・パラ合計は、半数以下（18万人弱 ⇨ 約7.8万人）\*となる見込み。 \*アスリート、一般観客を除く。計数は継続して精査。



# 大会関係者の行動管理等

## ○ 全ての大会関係者について、以下の通り安全・安心のための管理を徹底。

### 1. 水際対策、検査

- 各国出国前の検査は、通常一回だが、東京オリパラの関係者については二回行う(72時間以内と96時間以内)。検査機関はそれぞれの国の在外公館・NOC・NPCが認定したものをリストアップし、陰性証明書を入国時に提出。
- 入国時に空港で検査するとともに、その後3日間は毎日検査を行い、水際対策を徹底。
- 入国後4日目以降は、アスリートとの接触に応じて毎日又は必要な頻度で検査。
- IOCから各国NOCに対して、メディアを含めた大会関係者へのワクチン接種について強く推奨するとの要請。

### 2. 厳格な行動管理

#### **(1) 用務先**

- 大会公式会場、用務先として認められる限られた場所に限定し、事前にリスト化。
- 入国の約4週間前に、本邦活動計画書を提出し、組織委・政府のチェックを受ける。
- 入国後の行動範囲は、予め申請し承認された行先に限定。
- 一般人との接触は回避。(メディアについては、競技会場・MPC・IBC等に限定し、一般人への取材は防疫上の観点から認めない。)

# 大会関係者の行動管理等

## (2) 移動手段

- 公共交通機関を使用せず、貸切車両や大会専用バスに限定。

## (3) 宿泊場所

- 宿泊については、組織委が斡旋したホテルのみならず、メディアも含めて入国者が自己手配したホテルもすべて組織委が把握。
- 動線管理などのコロナ対策について一つ一つチェック、安全性が確認されない場合はすべて変更を要請するなどして集約を図る。
- これらのホテルについては、すべて自治体とも連携した上で、組織委が監督者を置くなどして関係者の行動を管理する。

## 3. ルール遵守担保の枠組み

- 以上のような水際対策、バブル方式による行動管理については、各団体に置かれるコロナ対策責任者に全ての情報が集められ、チェックが行われる。
- その上で、ルールに重大な違反が認められた場合には大会参加資格をなく奪するなど、厳格な措置を講ずることで、全ての関係者にルール順守を徹底させる。

# 大会に向けた医療体制の構築

現在のわが国のコロナ感染状況及び医療の状況に鑑み、次の通り、コロナ対応に直接従事している医療体制に支障のない形で、東京大会の医療体制を構築していく。

これによって、選手や関係者にとって安全・安心な大会のために必要な医療体制を確保するとともに、国民の命と健康、それを支える地域の安全・安心な医療体制を守る。

## 1. コロナ対策との棲み分け

- 大会に必要な医療スタッフについては、アスリートの外傷治療や観客の熱中症救護等を主な業務と想定し、コロナ対応に直接従事していない我が国スポーツイベントの経験が豊富な整形外科等の医師を中心に参画を依頼。  
(先般スポーツドクター200名の募集に対し、400名程度の応募があった。)

# 大会に向けた医療体制の構築

## 2. 必要人数の合理化

- 3月に決定した海外観客断念、大会関係者数の縮減（計画前の半減以下）等により、必要とされる医療スタッフの数を合理化。更に6月には観客上限の方針を決定。また、プレイブックによる厳格な検査や行動管理、ワクチン接種により発症者や重症者を抑える取組を行う。
- 当初の計画では、競技数が最も多い7月25日のピーク時で約700人の医師・看護師が競技会場や選手村の医務室で活動することとしていた。
- 総数としては、1人5日間程度の参画を前提として、大会開催期間を通じてのスタッフ数は総数約1万人（医師約2,600人、看護師約3,600人、理学療法士その他約3,800人）と見込んでいた。
- 合理化の下、医療スタッフの必要数の精査を行った結果、現時点で当初計画より、全体として3割程度の削減を行う。その結果、1日当たりピーク時の約700人は約540人となる見込み。
  - （合理化のポイント）
    - スクリーニング検査における検体採取方法変更による見直し
    - リモート診療の導入
    - スタッフのシフト数・勤務日数の見直し など

# 大会に向けた医療体制の構築

## 3. 現在の状況

- 医師をはじめ看護師、理学療法士等の関係者から参画の意思を表明していただき、精査後の必要数に対し概ね8割程度の見通しが立っている。
- 今後、協力の要請を行っている医療機関、医師会等の職能団体、競技団体等との間で、引き続き丁寧に調整を行い、安全・安心な大会医療体制の構築に理解を求めていく。

## 4. 更なる取り組み

- IOCから追加で各国選手団ドクター等の派遣の申し出があったことを受け、その具体的な対応について検討を進めているところ。
- 大会に協力頂く医師等のワクチン接種業務への妨げとならないよう柔軟な体制とするなどの調整を行う。
- 潜在看護師に協力をお願いする際は、個々の事情によりコロナ対応やワクチン接種に携わらない方もいると聞いているが、大会における看護師の業務として、健康観察や問診など、ごく基本的な業務を担当いただくことも含め、丁寧に働きかけていく。その際には、勤務条件・環境整備等にも配慮していく。

# 大会に向けた医療体制の構築

## 5. 参考

### (1) コロナ患者の発生数の抑え込み

- アスリートを含めた大会関係者の検査については、入国前に2回、空港到着時に1回、到着後3日間は毎日、その後も定期的な検査を行うなど、水際対策を徹底。入国後も宿泊、行先、輸送手段など厳格な管理を行う。
- 加えて、I O Cから各国N O Cに対して、メディアを含めた大会関係者へのワクチン接種について強く推奨するとの要請。I O Cによると大会時には80%以上の選手が接種の見込み。
- 上記を踏まえた上での医療への負荷について、専門家の意見も聞いた検証が必要。

### (2) 受け入れ体制の準備

- 大会指定病院（都内9、都外20）の協力を得る。  
なお、大会指定病院はアスリートへの外傷等を中心とする治療に当たるもの。アスリート・大会関係者の専用病床の確保を求めることはない。
- その上で、保健衛生支援拠点、都の入院調整本部が連携、情報共有、調整を図る。

### (3) 検査数

- 大会時に選手や関係者に必要な検査数は、最大で1日5～6万件程度と見込まれ、これについては組織委員会において民間事業者と調整を行い、都道府県が行う行政検査とは別に対応できる体制を確保している。  
したがって、行政が実施する緊急時検査や高齢者施設等での検査需要に影響を与えない体制となっている。引き続き、組織委員会、都、国が一体となって取り組み、6月の観客数上限の結果等を踏まえ、同月中に医療体制の姿を固め、公表する。

# 暑さ対策

# 大会時における天候の見通し

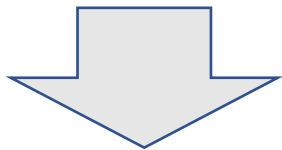
気象庁が夏の天候に関する予報を発表しており、今年の夏（6月～8月）の平均気温や降水量などの大まかな傾向は以下のとおり。

## 予報のポイント（東京など関東甲信地方）

- 全国的に暖かい空気に覆われやすく、気温は平年並か高い。
- 梅雨の時期（6月から7月）は湿った空気の影響を受けやすく、梅雨の時期の降水量は、平年並か多い見込み。このうち、6月は平年よりも曇りや雨の日が多い。
- その後、7月後半は平年よりも晴れの日が多く、8月は平年同様晴れの日が多い。

※気象庁では、気温・降水量の見通しを3つの階級「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」に分けて予報している

※2020年の夏は、7月後半に平年よりも気温が低く雨の日が多かった



上記の見通しを踏まえ、組織委員会として引き続き暑さ対策をしっかりと行っていく必要がある



# 暑さ対策の進捗 (サマリー)

	選手・競技役員	観客	大会ボランティア含むスタッフ	メディア (プレス・ライツホルダー)	オリンピックファミリー
<b>施設設備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アスリートラウンジ</li> <li>・選手用休憩所</li> <li>・遮熱性舗装の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日除けスペース・冷風機</li> <li>・体調不良の方用休憩所</li> <li>・街路樹計画剪定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイニングエリア</li> <li>・休憩所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベニューメディアセンター</li> <li>・ブロードキャストコンパウンド</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピックファミリーラウンジ (空調有)</li> <li>・扇風機、パラソル (屋外ラウンジのみ)</li> <li>・日よけパテーション (ガラス張りラウンジ)</li> </ul>
日射遮蔽設備の配置	アスリートロードゾーン	日除けテント/パラソル拡充	日除けテント拡充	ミックスゾーン日除け	
<b>飲料供給</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲料提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲料販売</li> <li>・ペットボトル・水筒持込可 (所定の条件下)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲料提供</li> <li>・飲料販売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲料提供</li> <li>・飲料販売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲料提供</li> </ul>
飲料供給強化		仮設給水栓設置	飲料水追加提供	飲料水追加提供	
<b>予防運営 (備品含む)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技スケジュール</li> <li>・競技中断、中止基準</li> <li>水分補給に関する</li> <li>ルールのIF連携検討</li> <li>・アイシング用氷</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スプ・ツップレベン</li> <li>・啓発うちわ</li> <li>・PSA朝顔</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な休憩の取り方</li> <li>・体調管理シート活用検討</li> <li>・警備員のサングラス着用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>諸室の換気</li> <li>IBC/P5 日傘設置</li> <li>PRS用座面シート</li> <li>塩タブレットの提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うちわ (一部会場)</li> <li>・おしぼり (一部会場)</li> </ul>
適切な休憩の促進		屋外席座面シート 諸室の換気 クールオフスペースの手指消毒剤 適切な誘導や注意喚起	諸室の換気 適切な誘導や注意喚起		OF用座面シート 諸室の換気 適切な誘導や注意喚起
<b>救護運営</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選手用医務室</li> <li>・救急車</li> <li>・医療用アイスバス検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医務室/救急車</li> <li>・ファーストレスポンスセンター</li> <li>・救護所等設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医務室/救急車</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医務室/救急車</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医務室/救急車</li> </ul>
体調不良者一次対応		容態切分け 隔離スペース			
<b>情報提供 注意喚起</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IF/NF、NOC、NPCを通じた気象情報発信</li> <li>・気象情報センター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大会Webサイト</li> <li>・モバイルアプリ</li> <li>・観戦ガイド・メール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通研修等の事前研修での理解促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気象情報センター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・OFガイドブック</li> </ul>
情報発信・周知強化		暑さ/コロナ対策の情報発信			

コロナ対策は赤枠のような対策を、各会場の実状に応じて実施

検討の強化視点	延期後進捗した暑さ対策	暑さ対策とコロナ対策の両立を踏まえた対策
---------	-------------	----------------------

# 暑さ対策とコロナ対策の整合の観点

○ 暑さ対策とコロナ対策の整合について、以下の観点で、各会場の実状に応じて引き続き運営検討中

- ①待ち行列や日除けテントでの、フィジカルディスタンス確保
- ②日除けテントや壁付テントやプレハブでの密集、密接、密閉を避ける運用
- ③マスク着用時の熱中症リスクを防ぐ情報発信（飲料水摂取促進、帽子等の着用）
- ④飲料水補給するための仮設給水栓の設置
- ⑤ファーストレスポnderの体調不良者の対応フロー、容態判断
- ⑥選手用アイスバス運用方法（対面を避ける、水の入替、水槽内の清掃等）

# 暑さ対策とコロナ対策の整合の観点

- 暑さ対策とコロナ対策を踏まえた 3 密を避けるオペレーション  
待機行列や日除けテントでの適切な誘導や案内を行い、フィジカル・ディスタンスの確保、マスク着用等感染予防策を注意喚起する。
- マスク着用時は、体への負荷がかかるため、暑さ対策の注意喚起を強化  
マスク着用時は、体に一定の負荷がかかる。  
熱中症予防のため、こまめな水分補給や、早めの休憩などを注意喚起する。  
特に、水分補給の際にはペットボトルの共用を避ける、手指消毒を徹底する等の対策をとるよう周知する。
- 暑さ対策とコロナ対策を踏まえた多面的な情報発信の強化  
プレイブック等を踏まえ、Games Time Webやモバイルアプリ等を通じて、熱中症対策やコロナ対策を分かりやすく情報提供し、深い理解を促進する。



# テストイベントでの暑さ対策検証



P&Pに基づく  
情報伝達フローを確認。

※WBGTの状況はスタッフ内で共有。

WBGT値が上昇した際には、こまめな水分補給・こまめな休憩（休憩場所の案内を含む）等を促すスタッフからの注意喚起を強化するとともに巡回の際に注意喚起や体調不良者早期発見に努める。



WBGT測定値を遠隔でモニタリング

本大会時に設置する  
WBGT測定器、表示盤を設置。

# テストイベントでの暑さ対策検証



新型コロナウイルス感染症対策に加え、暑さ対策を促す表示をあわせて掲示



一部会場に設置予定の座面シート



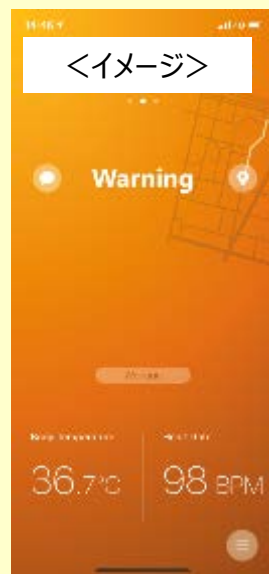
一部会場で観客に塩飴配布

# テストイベントでの暑さ対策検証



大会スタッフ向け  
エコ水筒

観客向け仮設給水栓



大会スタッフ向け  
熱中症対策アプリの  
運用をテスト  
※一部会場で実施予定



※アラートが出た際には、注意レベルに応じた熱中症を防ぐ行動を各自でとっていただくとともに、必要に応じて所属チームのリーダーに相談

テストイベント

# 海外アスリート参加のテストイベント



PRESS RELEASE

TOKYO 2020

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会  
<Tokyo 2020 NEWS-2021-084>  
2021年5月12日

## 海外アスリートが参加して開催されたテストイベント4件について 安全で安心な大会運営を確認

今夏の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、テストイベントであるバレーボール日本代表国際親善試合、FINA飛込ワールドカップ2021、北海道・札幌マラソンフェスティバル2021、READY STEADY TOKYO—陸上競技については、海外からアスリート、チーム関係者が来日し、テストを行いました。これらの大会について、概要を下記の通り報告します。

来日したアスリートおよびチーム関係者には、感染対策のため、空港における水際検査、滞在中毎日のスクリーニング検査、行動制限（ホテル・競技会場・練習会場等、行動先を限定）、動線分離・時間的隔離による濃厚接触防止など、大会参加のための厳しいプロトコルを遵守していただきました。

4大会合わせて、700名以上のアスリート、6,000名近い運営関係者が参加しました。4月28日に、FINA飛込ワールドカップ2021参加のために海外から来日した大会関係者（コーチ）1名が、空港検査で新型コロナウイルス感染症に陽性となった事案がありましたが、検疫所が指定した施設に移動。チーム関係者を含めて、当人に対する濃厚接触者が認められなかったことも速やかに確認いたしました（4月29日既報）。

テストイベントの開催に尽力いただいた関係者の皆さまには、心より感謝申し上げます。組織委員会は、今回のテストイベントでの取り組みも踏まえ、世界から参加するアスリート・関係者と、受け入れていただく都民・国民の皆さま双方にとって、安全で安心な大会を開催すべく、引き続きコロナ対策に万全を期してまいります。

なお、参加アスリートのコメント（英語）は以下からご覧いただけます。

■FINA飛込ワールドカップ2021兼東京2020オリンピック最終選考会  
<https://www.fina.org/news/2129455/a-world-cup-like-no-other>

### ■READY STEADY TOKYO—陸上競技

<https://olympics.com/tokyo-2020/en/news/justin-gatlin-storms-to-victory-at-the-final-athletics-test-event-ahead-of-the-o>

- 記 -

- バレーボール日本代表国際親善試合～東京チャレンジ2021～（5月1～2日 | 有明アリーナ）
  - アスリート2ヶ国60名（うち海外から来日したアスリート28名）
  - 来日したアスリートに帯同していた海外チーム関係者19名
  - 運営関係者1,110名
- FINA飛込ワールドカップ2021兼東京2020オリンピック最終選考会（5月1～6日 | 東京アクアティクスセンター）
  - アスリート46ヶ国・地域225名（うち海外から来日したアスリート212名）
  - 来日したアスリートに帯同していた海外チーム関係者159名
  - 運営関係者410名
- 北海道・札幌マラソンフェスティバル2021（5月5日 | 札幌大通公園）
  - アスリート5ヶ国94名（うち海外から来日したアスリート6名）
  - 来日したアスリートに帯同していた海外チーム関係者0名
  - 運営関係者2,700名
- READY STEADY TOKYO—陸上競技（5月9日 | オリンピックスタジアム）
  - アスリート7ヶ国・地域350名（うち海外から来日したアスリート9名）
  - 来日したアスリートに帯同していた海外チーム関係者3名
  - 運営関係者1,620名



聖火リレー

# 東京2020オリンピック聖火リレーにおける新型コロナウイルス感染症対策の実施について

・東京2020オリンピック聖火リレーについては、安全・安心な聖火リレーを実現するため、「東京2020オリンピック聖火リレーにおける新型コロナウイルス感染症対策に関するガイドライン」に基づき、新型コロナウイルス感染症対策をとりながら実施しております。

・聖火リレー関係者について、新型コロナウイルスの陽性者が判明した場合は、その都度公表しており、本日までに、累計11件の陽性者が判明したことを公表しております。

※11名はいずれも組織委員会や委託先事業者に所属する者ではなく、聖火リレーに参加・協力いただいている組織・団体に所属する方又は個人です。

・組織委員会の職員や運営委託スタッフの陽性者はおりませんでした。新型コロナウイルスの急激な感染拡大を踏まえ、聖火リレーの全ての関係スタッフに、あらためて感染予防策（次ページ）の遵守を求めました。

・また、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、特に、食事時において、スタッフ同士の複数名での食事をしないことや、仕切りのない空間でマスクをせず多数の者が食事をする場所では、一人であっても外食しないことについて、あらためて遵守の徹底を求めました。

・引き続き、適切な感染予防策をとりながら、東京2020オリンピック聖火リレーを安全・安心に実施してまいります。

オリンピック聖火リレーの運営スタッフは、以下の感染予防策を遵守します。

- 業務に従事する2週間前から、体調管理チェックシートと行動記録表を作成する。
- 業務に従事する2週間前から、毎朝検温を実施し、体調が悪い場合や感染が疑われる場合は、速やかに運営責任者に報告する。（その場合、運営責任者は、当該スタッフに、業務に従事せず、自主隔離する指示を出す。）
- できる限り同じ席での食事は控えるものとする。同じ席で食事する場合は、対面での着席は避けるとともに、会話は一切しないものとする。
- 常にマスクを着用し、手指消毒の実施を徹底する。
- 車両乗車時は、こまめな換気及び不要な会話を控えることを徹底する。
- 一人部屋での宿泊を原則とするが、複数人相部屋の場合は、部屋でもマスク着用とする。
- 業務開始2週間前から業務実施当日にかけて、休務日や業務終了後など業務時間外にも、3密が予想される場所（密集が予想される飲食店や娯楽施設等）には行かないことを徹底する。
- 長期間業務に従事する運営スタッフは、定期的にスクリーニング検査を受けるものとする。



# ジェンダー平等/多様性と調和の推進に向けた 取組について

# 本日のご報告事項 (多様性と調和・リスタート&アクション)

## ■ 情報発信

### ○朝日新聞社主催オンラインフォーラム「Think Gender 東京五輪にできること」

#### 橋本会長

- ・国民の皆様へのご心配、ご不安に対する受け止め、安全・安心第一の大会準備
- ・アスリートへの思い
- ・ジェンダー平等・多様性と調和の取組による、組織委員会内の変化 など

#### 小谷SD

- ・有識者と意見交換、組織委員会の取組を発信

### ○その他

- ・パートナー企業取組事例共有会
- ・コミュニケーションマナー集
- ・東京2020 NIPPONフェスティバル

※詳細は参考資料参照

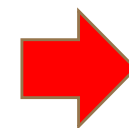
## ■東京2020宣言（仮称）

5月14日（金） 意見交換会を実施

参加者 荒木田副会長、大日方理事、白石理事、白波瀬理事、ゼッターランド理事、高橋理事、谷本理事、林理事、日比野理事、矢野理事、來田理事 等

（主なご意見）

- ・ 宣言名にD&Iやダイバーシティを入れたほうが良い。
- ・ 宣言名は目指す社会を示すものが良い。
- ・ 理念にパラリンピックの要素も入れるべき。
- ・ 発信時期を慎重に検討すべき。 等



いただいたご意見を反映

○先日のCocomにおいて、IOCが取組を高く評価。今後緊密に連携していくことを確認

○東京2020宣言（仮称）の実施時期については、最も効果的な時期をIOC等と今後協議

※詳細は参考資料参照

TOKYO 2020

## 【以下、参考資料】

### 5月10日（月）パートナー企業取組事例共有会

- パートナー企業と課題を共有し、レガシーに繋げることを目的とする
- 各社より、40以上の事例をご紹介いただいた中から、代表して以下の7社がD & I 等に関する取組事例を発表
- 小谷スポーツディレクター、大日方理事、谷本理事、田口アスリート委員が参加し、各社と意見交換
- メディア公開

#### （各企業の発表事例項目）

企業名	内 容
コカ・コーラ	日本コカ・コーラ株式会社のダイバーシティ&インクルージョン
P&G	経営戦略としてのEquality & Inclusion 「多様性」「平等な機会」「インクルージョン」が組織を変える
ENEOS	東京2020パラリンピック応援社内施策『ENEOSサポーターズ』
東京海上	アンコンシャス・バイアスへの取り組み
日本生命	Diversity & Inclusion ~多様な人材の多彩な活躍の推進~
LIXIL	大会会場施設での誰もが使いやすい住宅設備展開
Panasonic + 学生	ダイバーシティ&インクルージョンの取り組みについて



### コミュニケーションマナー集~Diversity & Inclusionのために、今からできること~

- 職員が体験した事例をまとめた『気づき』や『学び』のための教材
- 大会後は一人ひとりが得たものを出向元や新たなフィールドで実践しレガシーに

# 東京2020 NIPPONフェスティバル主催プログラム「共生社会の実現に向けて」

## ■ ONE -Our New Episode- Presented by Japan Airlines

### <コンセプト>

個々(ここ)からはじまる、新しいひとつの物語。

一人ひとり異なる個性をもつ人の物語が、集まり、交じり合い、つながり、そして共創することで、みんながひとつになるような、さらに新しい物語をつむぎだし、その物語を次代へつなぐレガシーとして引き継いでいきます。

### ■ Our Glorious Future ~KANAGAWA 2021~ カガヤク ミライ ガ ミエル カナガワ 2021

文化芸術各分野の最先端アーティストが、「共生社会の実現に向けて」をテーマにそれぞれの分野の枠を融解・共創して、障がい、年齢、ジェンダー、国籍に関わりなく「わたし」たちが輝ける「新しい未来の姿」を文化芸術の力により神奈川から世界に発信する共生イベントを開催

#### <概要>

○開催日時2021年8月14日(土)、15日(日)

※一部展示は、8月10日(火)~22日(日)予定

※オンラインでも配信予定

○開催場所等

#### ①横浜市西区紅葉ヶ丘文化ゾーン

(神奈川県立音楽堂、神奈川県立青少年センター)ほか

- ・ダンス部門ディレクション 森山 開次
- ・演劇部門ディレクション 多田 淳之介
- ・アート部門キュレーション 藤川 悠

#### ②神奈川県民ホール

- ・ギャラリー 前田 正博(陶芸)
- ・小ホール 三橋 貴風(尺八)

○実施体制

主催：神奈川県、東京2020組織委員会



©畑亮

### ■ MAZEKOZEアイランドツアー

ジェンダー・年齢・国籍・障がいの有無など様々な個性・特性のあるアーティストによるアートやパフォーマンス。それらが繋がり交じり合う島々を巡り、「まぜこぜ=多様性」を可視化。

この旅によって、視聴者は自分と同じ人などひとりもいないということに気づくことになり、共生社会の実現にむけた「きっかけ」「出会い」「共鳴・共感」へと誘う物語

#### <概要>

○開催日時：8月22日(日)16時から(予定)

○開催場所：オンライン(ライブ配信予定)

○総合構成・演出・総指揮：東ちづる

○参加アーティスト：

- 平原 綾香(ミュージシャン)
- レスリー・キー(写真家/映像監督)
- マメ 山田(日本一小さい手品師)
- 大前 光市(義足のダンサー)
- かんばら けんた(車椅子ダンサー)
- 佐藤 ひらり(全盲のシンガーソングライター)
- 森田 かずよ(ダンサー/俳優)
- 他、総勢50名以上のアーティスト





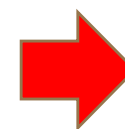
# 東京2020宣言（仮称）

## これまでのご議論

- 第42回理事会（3月2日）
- 人権労働・参加協働ワーキンググループ（3月8日）
- 第43回理事会（3月22日）
- アスリート理事等意見交換会（4月16日）
- 人権労働・参加協働ワーキンググループ（4月23日）
- 第44回理事会（4月26日）
- 新理事・アスリート理事等意見交換会（5月14日）

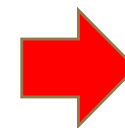
## いただいた主なご意見

- 宣言名にD&Iやダイバーシティを入れたほうがよい。
- 宣言名は目指す社会を示すものがよい。



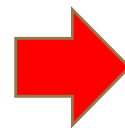
分かりやすく  
的確な宣言名に

- コロナ禍の分断・差別に触れるべき。
- 理念にパラリンピックの要素も入れるべき。



ご意見を反映

- 大会に様々なご意見がある中で、宣言を押し付けることにならないか。
- 発信時期を慎重に検討すべき。



適切な時期の  
宣言に向けて  
引き続き検討

## 1 目的

東京と日本が真の多様性と包摂を備えた社会へと変わり、次世代に引き継がれることを目指し、大会を契機として、確かな一歩を踏み出すための行動を宣言

## 2 対象

- ・ **組織委員会（組織・職員）**が率先して宣言するとともに、アスリート・競技団体・パートナー企業・大会ボランティアなどの大会関係者に声かけ
- ・ 組織単位、個人単位のいずれも宣言ができるようにする。

## 3 宣言のイメージ

- ・ 宣言者は、自ら目標・取組を考えて設定
- ・ 組織委員会が用意するアクションメニューから選択も可能

## 4 発表方法

- ・ 宣言の発表方法は宣言者が自由に選択（例：ウェブサイトに掲示、記者発表）
- ・ 大会後に振り返ることを前提に宣言。宣言の進捗の発表も宣言者が選択

# 宣言の構成

緑字は前回からの変更点

(表紙)

(宣言本文)

## 東京2020D&Iアクション -誰もが生きやすい社会を目指して-

東京2020大会は、その大会ビジョン「スポーツには世界と未来を変える力がある。」の基本コンセプトとして「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」を掲げています。「東京2020D&Iアクション -誰もが生きやすい社会を目指して-」も、これらの考えに基づいています。

新型コロナウイルス感染症による新たな差別や格差の拡大といった社会の分断が深まる中、大会に参画する多様な個性を持った多くの人々が、自分らしさを発揮して、違いを認め合い、違いを活かしながら協力することのすばらしさを改めて認識する場が、東京2020大会です。

東京2020大会を契機として、私たちの社会と未来に向けて何ができるかを考え、大会後も実践していくものとして、「東京2020D&Iアクション -誰もが生きやすい社会を目指して-」を宣言します。

## 東京2020D&Iアクション -誰もが生きやすい社会を目指して-

私たち一人ひとりが、人種、肌の色、性別、性的指向、障がい、言語、宗教、政治的又はその他の意見、国あるいは社会のルーツ、財産、出自やその他の身分などの理由による、いかなる種類の差別がなく、互いを認め合い、誰もが自分らしく生きられる**共生社会**を目指します。

組織名

宣言者がアクションを記入  
(組織委員会が提供するアクション  
メニューからも選択可)



# TOKYO 2020

東京2020 第45回理事会 資料

## 配付資料

---



## IOC理事会、第11回IOC調整委員会会議

2021年5月26日

### (1) IOC理事会（東京2020進捗報告）

- 1 日時：2021年5月12日（水）
- 2 場所：ローザヌ（スイス） ※テレビ会議形式により参加
- 3 出席者：  
IOC側：バッハ会長、コーツIOC調整委員会委員長、IOC理事 ほか  
東京側：橋本会長、武藤総長、遠藤副会長、山下副会長/IOC委員、  
中村GDO、小谷SD
- 4 内容：東京大会の進捗についてのプレゼン及び質疑応答 等  
新型コロナウイルス感染状況／プレイブック第2版／専門家ラウンドテーブル／  
テストイベント／聖火リレー／

## (2) 第11回IOC調整委員会会議

1 日時：2021年5月19日（水）～21日（金）

2 場所：晴海トリトンスクエア

※テレビ会議により開催（一部IOCスタッフが現地で参加）

3 出席者：

IOC側：コーツIOC調整委員会委員長、

ギラディ同副委員長、同委員、スタッフ ほか

東京側：橋本会長、各副会長、武藤事務総長、各副事務総長、

小池都知事、丸川オリンピック・パラリンピック担当大臣、

萩生田文部科学大臣

東京都、政府、JOC、JPC ほか

## (2) 第11回IOC調整委員会会議（続き）

4 内容：東京大会の進捗についてのプレゼン及び質疑応答 等

<5月19日（水）>

○オープニング

○全体プレゼンテーション

○ワーキング

レガシー／観客

<5月20日（木）>

○ワーキング

スポーツ&IF／アスリート&NOC／パラリンピック競技大会／

オリンピックファミリー／マーケティングパートナー／メディア

<5月21日（金）>

○ラップアップ&クロージング

## コーチ委員長からのコメント（要旨）

- ・今まで進められた作業の最終段階にさしかかる素晴らしい会議であった。  
特に健康・安全に係る議論がなされ、参加する全ての人にとって安全な大会になることが明らかになった。
- ・IOCとしては、医療従事者を海外から派遣したいと考えている。また、ワクチン接種についても、引き続き協力していく予定である。
- ・非常に厳格なコロナ対策がとられたなかで、いくつものテストイベントが開催され、安全な運用を担保することができた。
- ・予選についても準備が進んでおり、残りの20%についても6月末までには参加者が決定されるであろう。
- ・8年かけて素晴らしい準備が行われ、いよいよ最終目標が手の届くところになった。組織委員会、日本政府、東京都、何より日本国民の皆様のおかげであると思っている。また、ステークホルダーや関係者の皆様にも心から御礼を申し上げたい。